起源伝承四百年

岩崎獅子舞

岩崎獅子舞保存会
岩崎上町自治会
岩崎中町町内会
岩崎下町町内会

所沢市指定文化財（無形民俗）

岩崎簫獅子舞（いわさきささらししまい）

岩崎簫獅子舞は、所沢市山口の岩崎地区に伝承されており、毎年一〇月の第二土曜日に瑞岩寺（ずいがんじ）境内で行われます。その起源は古く、江戸時代初期に遡ると伝わります。

昭和四四年六月二七日、所沢市無形民俗文化財に指定され、これを機に同年「岩崎獅子舞保存会」が結成されました。

起源伝承

岩崎村を知行した地頭（旗本）の宇佐美（うさみ）長元（ながもと）が、慶長一九年（一六一四年）の大坂冬の陣において戦功を立てた帰りに京都へ立寄り、三頭の獅子頭を買い求めて獅子舞の師匠を伴って凱旋して、村の若者たちに稽古をさせたのが始まりと伝わります。

特徴

三人の舞手が、それぞれ頭上に獅子頭をかぶり、腹に太鼓をくくりつけて、これを撥で打ちながら、笛と簫の音に合わせて舞い踊る一人立ちの獅子にあります。獅子の周囲には簫子（ささらっこ）と呼ばれる伴奏者がそれぞれ立ち、彩り鮮やかな花笠をかぶって、左右の手に持った簫をすり合わせて音を出します。このほかに、山伏（やまぶし）（一名）、棒使（ぼうつかい）（四名）、蝿追（はえおい）（一名）、笛（四名以上）の役があり、二〇名前後の人たちで演じられます。

ストーリー

二頭の牡獅子（おおじし）（大獅子・中獅子（なかじし））と一頭の牝獅子（めじし）が遊び戯れている中、牝獅子を我がものにしようとする牡獅子が互いに争います。しかし、牝獅子の調停によって争いをやめ、三頭の獅子は平和な牡丹の花園に終日舞遊びます。

見どころ

獅子舞が始まる前と後に、舞庭（まいば）を清める棒使の凛々しい姿、勇壮な獅子の舞、簫子の可愛らしい姿など、見どころは満載です。

また、簫子の花笠の頭上には、それぞれ「日（太陽）」と「月」と「牡丹の花」が付いています。日の簫子は大獅子と、月の簫子は中獅子と、牡丹の簫子は牝獅子と組んで舞いますので、ここにもご注目ください。

道具類の紹介

【獅子頭】

桐材の竜頭で、朱塗、目・鼻・歯は金塗。大獅子は朱と金の二色のねじれ角が二本、中獅子は真直ぐな角が二本つき、牝獅子には角がありません。三頭とも頭頂に金色の宝珠をもち、上唇に七本の金色の剣先がつきます。また、鼻に白い髭をつけ、耳は赤、金色の牙をもちますが、牝獅子の歯はギザギザがなく、のっぺりとしています。

頭髪は、頭部全体に東天紅（とうてんこう）の羽毛を用い、後頭部にはコンドサと呼ばれる濃紺の和紙を細かく切って作ったものを、タテガミのように長くたらします。前頭部には、唐草模様のミズヒキと呼ぶ幕を下げます。

※起源伝承四百年を機に、平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）などにより、獅子頭と太鼓の修理を実施しました。

【簓】

簓（ささらこ）子が左右の手に持つ道具です。竹筒の下半分を茶筅のように細く割ったものと、木を筒状に切って、反面を三分の二程までギザギザに刻んだものを両手に持ち、すり合わせて音を出します。

▲獅子頭（左から大獅子・中獅子・牝獅子）

【花笠】

簓（ささらこ）子がかぶる黒塗で円形の笠は、側面に金色の牡丹の花が描かれています。頭頂の中央部には、ヨシノバナと称する造花が一六本、根元を一つにまとめてさしてあります。この造花は、下から赤・白・赤・白・赤と交互に枝に結びつけられ、上部に向かって開いています。ヨシノバナはかつては魔除けのお守りとされ、獅子舞の後にもらって帰り、家の木戸にさげたといいます。

花笠の造花の内部には、花に囲まれるような形で、それぞれ金色の日・銀色の月・ピンク色の牡丹の花がつきます。また、日と月には、それを覆うように黄色の紙を細かく切って作ったススキをさし、牡丹には、ススキの代わりに小さな牡丹の花がたくさんさしてあります。

所沢市指定文化財（歴史資料）
旗本宇佐美家・久貝家の墓

岩崎獅子舞を当地に伝えたとされる地頭（旗本）の宇佐美長元の墓が、瑞岩寺境内に所在します。

宇佐美家の墓は三基あり、徳川氏の関東入国後、岩崎村を知行したといわれる宇佐美長元とその妻、及び宇佐美氏縁者の墓です。この宇佐美氏縁者は、久貝正俊の庶長子として生まれ、宇佐美長元の養子になりましたが、後に長元に男子（宇佐美長歳）が生まれたことにより、久貝家へ戻った正久と推量されます。

久貝家の墓は計六基で、久貝正俊とその妻（宇佐美長元の娘）、及び二人の間に生まれた子（正偏・正世・正信）と、久貝正信と宇佐美長歳の娘の間に生まれた子（俊忠）の墓です。宇佐美氏の後、岩崎村を知行したのは久貝正信で、以降、久貝氏は幕末まで同地を知行しました。これら墓石のほか、宇佐美長元の墓の右側に石灯籠が一基、墓所入口に常夜灯二基が建っています。この石灯籠と常夜灯は、延宝五年（一六七七年）七月に久貝正方（正世の養子）が、正俊と正世の供養のために奉献したものであり、これにより「旗本宇佐美家・久貝家の墓」は久貝正方が整備したと推量できます。

『寛政重修諸家譜』には、宇佐美長元は瑞岩寺に、久貝正俊は交野郡中宮村（現在の大阪府枚方市）に葬られたと記載されています。久貝氏一族の葬地は別にありますが、宇佐美家との縁などから、当地にも墓石が建立されたようです。

▲旗本宇佐美家・久貝家の墓

【瑞岩寺のご案内】

所沢市大字山口四〇〇番地
西武池袋線「西所沢」駅下車
徒歩約一五分

発　行　平成二六年一〇月一一日
岩崎獅子舞保存会
岩崎上町自治会
岩崎中町町内会
岩崎下町町内会
編集協力　所沢市文化財保護課

※このリーフレットは「平成26年度所沢市絆ごう地域応援事業」の採択を受け製作しました。